

種名	ヒヨドリ Hypsipetes amaurotis 													
分類	スズメ目ヒヨドリ科													
特徴	木の実を好む全身灰色の中形の鳥。全国で広く繁殖し、個体数が多い。北方や山地のものは一部の個体をのぞいて、冬期は暖地に移動する。渡りの時、半島の先端部などでは昼間、次々に渡る群れを観察することができる。国外の繁殖地は台湾とフィリピンである。													
生活	平地の都市部から山地の森林まで樹木のある環境なら至る所に棲息している。市街地の街路樹や公園の木に営巣するようになったのは 1970 年以降のことで、都市化への適応例として注目されている。樹木の込み合った枝の中やつるのからんだ所に営巣し、人里近くではビニールひもなどを巣材によく使う。繁殖期にはコガネムシなどの大形の昆虫を好んで捕まえるが、秋冬の主な餌は柔らかい果肉をもった木や草の液果である。													
声	周年よく鳴く鳥で、さえずりと地鳴きの区別はあまりはっきりとしない。しかし、3月頃から「ピッピッピーピーピー」という、高めのかなり美しい声を出すようになる。これがさえずりと思われる。そのほか「ピールルル」とか「ピーヨ」とよく鳴く。「ピーヨ」と鳴くのでヒヨドリという名前がつけられたと云われている。													
見分け方	全身灰色で、頬が茶褐色。													
時期：寒地 ：暖地	(月)	-	-	-	4	5	6	7	8	9	10	-	-	
	(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
その他	全長(L)28cm 翼開長(W)40cm													
参考文献：山溪カラー名鑑 日本の野鳥														